

## 杉の森

興元寺墓地内にあり、昔は松の大木もあり森をなしていたようであるが、現在は杉と檜の大木が1本ずつ残っているだけである。

杉氏の森という意味で、杉元相の子、小次郎元宣が毛利氏により謀殺され、その遺体や馬、馬具等が、この場所で火葬にされたと伝えられている。その折、煙がなびいた一帯には、たたりがあるとされ、毛利氏が恐れ、その一帯を興元寺に預け、供養を依頼したといわれている。



## 取水地

明治37年徳山海軍煉炭製造所（後の海軍燃料廠）建設に伴い、用水確保のため、東川支流の鉢窪と城山北の2か所に、田地用水の最少限確保を条件として取水口が造られた。

鉢窪の取水口は、興元寺の後方東側の山峡を流れる小さな溪流に造られ、城山北の取水口は、興元寺の西側、東川を挟んでそびえる城山の北方の谷間に、小野・堀越・峠以南の水が流れている東川の支流に造られた。

ここには、徳山人に親しまれた、高さ6m・幅60cmぐらいで、周囲はうっそうとした森林が茂り、夏期には涼を求めて人々が集まっていた「音無の滝」があり、その滝つぼを取水口にされた。現在は開発されて滝の観賞価値はなくなっている。

